

地域観光チャレンジ2022 での演習成果

産業マネジメント学科 西村ゼミ（チーム西条）
越智みんなみ 立川ちなみ 能智泰良 三木大知

地域観光チャレンジとは

- 四国を「課題先進地域」から「課題解決先進地域」へ転換させることを目指し、四国4国立大学（愛媛大、香川大、徳島大、高知大）とJR四国が連携協定を締結したことにより始まった連携事業。

- 主旨：

四国の地域資源を調査・発掘し、観光の素材として付加価値付けを行い、観光による地域振興に役立てていく。

同時に、本活動を通して、地域創生に関わる人材育成を図る。

四国とJR四国の現状と課題

四国の課題

- 四国の人口のピークは1985年の約423万人。
- ピークから35年後の2020年時点で約369万人に減少(約54万人減)。
- 25年後の2045年には約282万人に減少すると見込まれている。

JR四国の課題

- 対抗となる高速道路の延伸や人口減少等に伴い、JR四国の運輸収入は減少が続いている。
- 赤字の路線が大半を占め、地域一体となった鉄道ネットワークの維持が求められている。

地域観光チャレンジの目標

四国地域の課題
(人口減少・地域経済の縮小)

地方公共交通の課題
(地域一体となった
鉄道ネットワークの維持)

交流・関係人口の拡大

四国の強みを活かす
(地域間競争力)

観光産業での四国家づくりにチャレンジ!

大まかな活動内容

- 四国4県の地域資源や文化資源にスポットを当てたツアー商品（日帰りor1泊2日）を企画し、JR四国に提案する。
- 審査会で選ばれたものは実際にJR四国からツアー商品として販売・実施される。（今年度は2023年3月~6月の間に催行）

地域観光チャレンジの流れ

1. 四国4県内の地域資源を発掘し、観光素材として取り上げ、ストーリー付けしてツアー企画化する。
2. 学内審査でプレゼンを行い、代表2企画を選出。
3. 最終審査会でプレゼンを行い、4大学×2企画=8企画の中から金賞1つ、銀賞1つ、銅賞2つを決定する。(昨年9月に徳島大学で開催)
4. 最終審査会に進んだ8企画は商品化に向けてブラッシュアップや打ち合わせを行い、JR四国が「四国家のお宝」シリーズのツアー商品の一つとして実市場に実施展開する。

ツアーを企画する際の注意点

- 有名スポットのみを巡る従来の物見遊山型のツアー企画ではなく、地域の価値ある素材（歴史・食・文化・ジオ等）を調査し、テーマを持って掘り下げたツアー企画にすること。
- “見て・聞いて・食べて” 学ぶ。
- NHKの「ブラタモリ」のような探求・共感型のツアー。

審査基準

- **本物性**（選んだ観光素材が他の地域にない独自の個性を持っている）
- **物語性**（予備知識がなくても楽しめるテーマ性・ストーリー性がある）
- **実現性**（地域の協力体制・価格・天候等、実現可能で現実に商品化できる）
- **持続性**（地域に持続可能な仕組みがあり、継続して地域振興に繋がる要素がある）
- **新規性**（既存の商品や考えにはない新しい視点である）
- **方向性**（地域と広く協力し、地域の活性化に効果的である）

昨年9月に実施された最終審査会の結果

- **銀賞受賞**

- 現在は2023年6月の実施に向けて商品化中

受賞の様子

記念写真



心をうちぬく最上(西条)級の水と農作物

【チーム西条】

■三木大知

■能智泰良

■立川ちなみ

■越智みんみ

西条市に着目した理由

愛媛県内の観光は、南予や中予が注目されやすく、東予は観光のイメージが薄い



- 東予地方の中でも、**西条市は住みたい田舎ランキングで全国1位**となったこと。
(2021年版 宝島社「田舎暮らしの本」の全四部門で1位)
- **うちぬきが有名**であること。
- **県内でも有数な農業が盛んな地域**であること。



西条市に着目したツアーを企画し、魅力を発信することで
もっと西条市に注目してもらいたい

ツアー目的

1. うちぬき自体の魅力や農作物の豊富さを伝え、うちぬきで育まれる独自の農作物を味わうことにより西条のすばらしさを感じてもらうこと。
2. うちぬきの水・**美味しい農作物 = 西条（最上）**のイメージを定着させて、リピーターを掴むこと。
3. **この延長線上に、将来における移住・定住の期待が込められている。**

ターゲット層

- 40代以上の男女、自然が少ない比較的都会な所に住んでいる人
例) ・健康に気を遣い、お金にある程度余裕がある人
- ・田舎の農業や食に興味がある人
 - ・田舎での生活に興味がある人

西条市のうちぬきについて



- 「**名水百選**」に認定
- 「全国利き水大会」で**2年連続1位**
- 3000本の自噴井
市の水道水源の**90%**は地下水
- 西条平野の農業用水の大半も地下水

うちぬきの特徴

- ・水温が14°C程度と温度変化が少なく、**水質が安定**
- ・石鎚山系から瀬戸内海までの距離が短く、高低差が大きい
→水が淀まず、**水の味を悪くする成分が溶け込まない**
- ・地下水の浸透区域から自噴地域までの距離が短い
→**ミネラル分が適度な状態である**
- ・自噴や湧水によって、常に地下水の揚水がある
→**浄化作用**が繰り返し行われている

具体的なうちぬきの数値（一部抜粋）

項目	おいしい水の要件	うちぬき広場	加茂川左岸 うちぬき公園	総合福祉センター
蒸発残留物 (多いと苦みがある)	30~200mg/ℓ	26	32	35
硬度	10~100mg/ℓ	23	38	37
臭気度	3以下	異常なし	異常なし	異常なし
残留塩素	0.4mg/ℓ 以下	<0.05	<0.05	<0.05
水温	最高20度以下	13.6	14.8	14.4

出典：[水の歴史館 おいしい水の要件 - 愛媛県西条市ホームページ \(city.saijo.ehime.jp\)](http://city.saijo.ehime.jp)

絹かわなすについて

西条でしか栽培されない伝統野菜

- ・ ミネラル豊富なうちぬきの水によって栽培
- ・ そのため、うちぬきがある西条でしか作れない
- ・ 愛媛の「愛」あるブランド産品にも認定
- ・ 品種改良されていない在来品種として、西条市で継承されてきた

《特徴》

- ・ 350 g で大型
- ・ 甘く、滑らかな食感
- ・ アクが少ない
- ・ 柔らかい果皮
- ・ ほとんど種がない

ツアー日程 6月24日(土)に実施(農家さんと調整中)

※ジャンボタクシーで移動



9:30

JR伊予西条駅集合

10:00~
10:30

絹かわなす畑訪問

11:00~
12:00

マルブン小松本店でランチ

12:30~
13:10

アクアトピア水系を散歩

13:20~
14:00

ときめき水都市でお買い物

14:30~
15:00

ゆきもと農園でデザート

15:10~
16:10

成龍酒造で酒蔵見学、日本酒飲み比べ

17:00

JR伊予西条駅到着、解散

絹かわなすの畑

今ツアーPOINT①

実際に絹かわなすが栽培されている様子を見ることができる

生産者の方から直接絹かわなすの特徴や、栽培におけるこだわりや
想いなどのお話を聞くことができる

【目的】

西条市の特産である絹かわなすの魅力を
知ってもらう。

収穫体験や試食もさせていただく
予定です。



MARUBUN 小松本店



地元の方々に愛されるイタリア料理店！
今ツアーPOINT②

西条市の旬野菜を使用した今ツアー限定
ランチをいただく

【目的】

多くの地元食材を存分に味わってもらい、西条市の農産物の魅力に気づいてもらう。

アクアトピア水系



西条市中心部に整備された水系を散歩
無料の水汲み場や水飲み場でうちぬきを試飲

今ツアー-POINT③

西条市役所の方によるうちぬきのガイドを
聞きながら巡るツアー

【目的】

西条市の水の豊かさを五感で感じてもらう。

👁️
見る

👃
嗅ぐ

👄
味わう

👂
聞く

👋
触る

アクアトピア水系のマップ



JAえひめ未来 ときめき水都市

今ツアー-POINT④西条市の農作物を購入できる

絹かわなすなど西条市で作られた農作物をはじめ、鮮魚や精肉など様々な商品が販売されている。ここでは、絹かわなすのコンフィチュール（ジャム）が販売されている。

【目的】お土産によって、ツアー後も農作物を楽しんでもらう。
お土産を通じて参加者に絹かわなすなどの西条の農作物を周りに広めてもらう。



ゆきもと農園

いちごソフトクリームを堪能

今ツアーPOINT⑤

うちぬきで栽培されたいちごのデザートを食べられる

いちごは90%が水分で出来ていて水が重要



【目的】

良質なうちぬきで育ったことで生み出される
美味しさを体感してもらう。



せいりょう

成龍酒造



今ツアーPOINT⑥

うちぬきで作られた日本酒を、**ツアー独自のプレミアムコース**で飲み比べ
うちぬきを使った酒造についてお話を聞ける**酒蔵見学**

【目的】

- ・うちぬきだからこそ生み出される味を体感してもらう。
- ・清酒造りにかける生産者の思いや、生産者の立場から見たうちぬきの魅力を知ってもらう。

費用・価格

・ジャンボタクシー（1台9人乗り）

30分3,450円 × 3時間利用 × 2台 = 41,400円（税込）

・食事代

マルブン小松本店での昼食 2,000円（税込）

ゆきもと農園のいちごソフト 450円（税込）

成龍酒造での日本酒飲み比べ 900円（税込） 合計**3,350円**

絹かわなすの生産者の方への謝礼金 5,000円（見込み額で現在調整中）

費用・価格

- 原価（1人当たり）（伊予西条駅までの乗車券等は含まない）

6,250円（16人の場合+スタッフ2人）～7,990円（10人の場合）…2台

6,563円（8人+スタッフ1人の場合）…1台

一人当たりの原価が一番高くなる場合

➡8,506円…9人+スタッフの場合（2台利用）

最少催行人数…8人

- 交通費（乗車券+自由席特急券）

松山～伊予西条（往復） $2,860 \times 2 = 5,720$ 円

高松～伊予西条（往復） $3,990 \times 2 = 7,980$ 円

費用・価格

希望販売価格帯

1人当たりの原価が最も高くなる9人+スタッフの場合

松山駅からの場合（自由席利用）

$(5,720 \times 0.7) + 8,506 = 12,510 \div 12,600\text{円} \sim$ （この価格でも赤字にはならない）

10%の利益を上乗せする場合… $12,600 \times 1.1 \div 13,900\text{円} \sim$

高松駅からの場合（自由席利用）

$(7,980 \times 0.7) + 8,506 = 14,092 \div 14,100\text{円} \sim$ （この価格でも赤字にはならない）

10%の利益を上乗せする場合… $14,100 \times 1.1 \div 15,500\text{円} \sim$

協力していただくステークホルダーの皆様

ありがとうございます

審査基準に対する自分たちの考え

- 本物性

今ツアーで取り上げるうちぬきと絹かわなすはどちらも西条市にしかない固有のものであり、他の水やなすには無い特徴があるので、価値が高いと考えている。

- 物語性

今ツアーで巡るスポットは全て「うちぬき」が関係しているので、全体を通して「ストーリー性」があると考えている。また、市役所の方や生産者の方に解説していただく予定なので、予備知識が無くても楽しめると考えている。

- 実現性

今ツアーは、西条市観光振興課の方やJAえひめ未来様など、多くの関係者の方の協力を得られることになったので、地域の協力体制は十分に整っていると考えている。

天候に関しては、屋外での行程もあるが、少雨であれば決行できると考えている。価格も、ツアー限定の食事などを考慮すると妥当ではないかと考えている。

• 持続性

今回は西条市の野菜として「絹かわなす」をメインに取り上げたが、西条市では七草やはだか麦等、様々な農作物が栽培されているため、**季節に応じて農作物を変更すれば一年を通して実施できる**のではないかと考えている。

また、今ツアーは「**うちぬきや絹かわなすを通じて西条市の魅力を知ってもらい、西条市に興味を持ってもらうこと**」が目的であることに加え、西条市は2021年度の「**住みたい田舎ランキング**」で**全国1位**になっているので、**ツアー参加後に更に西条市に興味を持ってもらえ、最終的には西条市への移住にもつなげられる**のではないかと考えている。

そして、今回のツアーでは、マルブン小松本店様やゆきもと農園様など、各店舗・施設の**魅力も感じてもらえる**と思うので、**ツアー後の地域ビジネスにもつながる**と考えている。

- 新規性

今回のツアーは、地元の綺麗な水や地元でしか取れない野菜に着目して西条市の魅力を発信し、最終的には西条市への移住に繋げようとしている点が他の商品などにはない新しい視点ではないかと考えている。

また、アクアトピア水系での解説・説明については、私たちはうちぬきの説明に加え、アクアトピア水系を整備したきっかけや市の考えなども話していただきたいと考えていたので、観光物産協会ではなく、市役所の方に説明していただくことにした。この点は、新しい視点の柔軟な発想ではないかと考えている。

• 方向性

今回は、西条市役所様やJAえひめ未来様、マルブン小松本店様など、多くの地域ステークホルダーの方との協働を通してツアー商品の企画を進めていくことができた。

特に、関係者の方による解説やお話、ツアー限定の食事や飲み比べなどは、地域ステークホルダーとの協働が無ければ実現できなかったと思われる。また、今回のツアーは多くの方に西条市の魅力を伝えることが出来る内容だと思うので、地域に波及効果は十分あるものだと考えている。

地域観光チャレンジの活動を通して

- 発見した西条市の新たな魅力をどう生かせば西条市の観光や地域経済の振興に繋がられるか考えながら活動することができた。
- どのような内容にすれば参加者に西条市の魅力を伝えられるか考え、ツアー企画に昇華させることができた。
- 地域を活性化するためには地域ステークホルダーとの協働が必要不可欠だと改めて実感した。

ご清聴ありがとうございました。